# 歌を作るということは新しい自分に出会うこと

伊藤美代さん（石関）

『さくら花幾春かけて老いゆかん身に水流の音ひびくなり』

馬場あき子さんのこの歌が好きだとおっしゃる、石関にお住まいの伊藤美代さんは大正十三年生まれ。

旅行がお好きで、先日も息子さんの運転で、大好きな蔵王連山を背景に咲き誇る、宮城県大河原町の「一目千本桜」を見に行ってきたばかり。

白内障を患ったものの手術で完治、先生から二十代の眼にもどったと太鼓判。昨年、転倒・骨折しましたが、骨密度は五十代だとか。「私の健康の秘訣（ひけつ）？さぁ、なんでしょう。三日に一度は歩いて郵便局まで行きますし、六月は奥の細道をたどる旅に出ます。考えてみると、ぜんぶ歌につながっているようですから、私の健康の源は短歌ということですね」

石川暮人氏らを中心に昭和三十一年に創設された、全国で九百人の会員を擁する窓日（そうじつ）短歌会で、機関誌の編集委員と選者を務めています。

「若いころから短歌が好きで、自己流で作っていましたが、石川先生の会員募集の記事に、なにか背中を押されているような気がして入会しました」

「いい歌は、他人からみると平易ですんなりと入る歌。自分では心がはけた感じを持てて、余情が残る歌。そんな歌ができたときはとても幸せな気持ちになります。今日が、また新しい一日という気持ちで日々過ごしたいと思っています」

現在、窓日短歌会矢板支部の会員は二十数名。「人は一人では育ちません。仲間がいると、自分だけの殻に閉じこもることなく、他人に自分を発見してもらえるという楽しみがあります。短歌は難しいと思われがちですが、欲張ると難しくなります。素直に自分を出せればいいのです」と、自らも学びながらの指導。

市の公民館で偶数月の第二日曜日午後一時半から勉強会を行っています。会に入ってない方も見学OKです。

## 矢板の元気印！

# 矢板の自然のなかで開花した私のマラソン人生

湯田真一さん（コリーナ）

埼玉に住んでいたころは全く運動をせず、余分な肉がつき、今で言うメタボ予備軍といった感じでした。そんな体型をなんとかしようと思い、休日は時々家の周りを走っていたそうです。しかし交通量が多く、信号や踏み切りもあり、とても走りずらい環境だったとか。

十三年前、娘さんの小学校入学を機に、新幹線通勤を覚悟で矢板市へ引っ越して来ましたが、空気はいいし、自分が走りたいだけ自由にコースをとる事ができ、湯田さんにとってここは最高の環境に思えたそうです。

当時は県内のマラソン大会に家族で出掛け、親子の部にエントリーし娘さんと走る程度でした。その後、徐々に練習の距離を延ばし5kmや10kmの部に参加するようになりました。

そして二〇〇一年のたかはらマラソン大会で堂々の優勝。それがきっかけで、矢板市から塩谷地区駅伝への出場依頼がきました。「まさかこの年齢で駅伝大会の選手として走れるとは思っていませんでした」とおっしゃる湯田さんは四十七歳。それ以来ますます練習にも熱が入り、昼休みや仕事帰りに、会社近くにある皇居周辺を走るようになったそうです。

マラソン大会に参加するたびに顔見知りも増え、二年前には矢板ランニングクラブ（会員約三十名、うち女性七名）として、合宿と合同練習会を行うなどの活動を始めました。駅伝や合宿、ほかのクラブチームとの合同練習会などにも参加し、多くのランナーと交流を図っています。今では年間二十数回のマラソン大会に参加し、今年は念願の郡市町対抗駅伝に矢板市代表として九区を走るまでに。

「これからも矢板ランニングクラブの仲間と共に、楽しく走って行きたいと思います」と、矢板の自然とマラソンにぞっこんです。

コリーナの人たちに言わせると「休日、湯田さんがコリーナ周辺を走っていない時はどこかの大会に出場しているんだなと思う」とか…。

# できました!! 川崎城跡公園再生基本計画

■三月八日に川崎城跡公園再生基本計画案の発表会があり、広報やいた四月一日号に関連記事が掲載されました。この基本計画案を作成したのは、「川崎城跡公園再生市民会議」のメンバーです。

■昨年始め、遠藤市長は、矢板市民それぞれに郷土に対する愛着や誇りを持っていただきたいとの願いから、具体的な事業のひとつとして、川崎城跡と塩谷朝業を市民の精神的なシンボルにするための、川崎城跡公園再生を発案されました。

■従来の行政主導型ではなく、市民ボランティアからなる「川崎城跡公園再生市民会議」を立ち上げ、会員を募ったところ、早速三十八名の個人と五つの団体が応募してくれました。

■市民と市の協働事業としてスタートすることになり、昨年五月の第一回目の会議から基本計画案発表の今年三月までに、十五回の会議、他市視察、現地調査、城山の草刈りを行ってきました。その間、四つの部会「整備1」「整備2」「イベント」「歴史」に別れ、部会ごとに幾度も打ち合わせや現地調査を重ねました。

■そして出来上がったのが「川崎城跡公園再生基本計画」です。

川崎城跡公園が今後どのように生まれ変わり、維持され、そして多くの矢板市民に愛され親しまれるか？そのために行うイベントの計画や、歴史的背景を市民に伝える活動などが盛り込まれています。

今後、部会ごとにこの基本計画の概要をお伝えします。

**会員募集中**
秘書政策室まで

## 編集後記

新年度になり、ついに紙面がカラーになりました。これで写真の載せがいもあるってもんです。全体も華やかになったと思いませんか？「かわら版」が写真の腕を披露する場所にもなりましたね。
次号より新しい記者が加わります。
「私も！」という声をお待ちしています。
一緒に「かわら版」作りましょう！